

板橋区町会連合会下赤塚支部
板橋区危機管理室

下赤塚地区 防災マニュアル

守るのはあなただ！
命を救う自助・共助



はじめに

- 首都圏では、首都直下地震の切迫性が高まっており、その備えが必要です。特に、大規模災害では、行政による災害対応（公助）に限界があり、また、「自分の身は自分で守る（自助）」も、負傷等によって対応できなくなるかもしれません。
- 他方、過去の震災では、地域住民の助け合い（共助）によって多くの命が救われています。
- そこで、このマニュアルでは、
 - ①災害時に、本地区ではどのような被害が想定されるか、
 - ②それに対し、「自助・共助」でどのように立ち向かっていけばよいか、
 - ③そのために、どのような備えが必要か、について、地域・防災をよく知る関係者が集まって話し合い、「自助・共助」の防災対策を検討しました。
- 「自助・共助」により地域防災力を向上させることが、犠牲者や建物等の被害軽減につながります。
- このマニュアルを読み、各家庭での防災対策に役立てていただくと同時に、地域の防災活動にもぜひご関心をお持ちいただきたいと願っております。

平成 28 年 3 月

板橋区町会連合会下赤塚支部
板橋区危機管理室

目次

「防災マニュアル」の考え方	2
(1)「防災マニュアル」5つのステップ	2
(2)本マニュアルの作成過程	4
ステップ1 自分の住むまちを知りましょう	5
(1)下赤塚地区の地域特性	5
(2)首都直下地震の被害想定	8
(3)地震に関する地域危険度	9
(4)液状化危険度	10
(5)洪水ハザードマップ	10
(6)「危険・資源マップ」の作り方	11
ステップ2 大地震発生！まちでそのときには	14
(1)「被災・対応シナリオ」の考え方	14
(2)下赤塚地区「被災・対応シナリオ（自助）」	15
(3)下赤塚地区「被災・対応シナリオ（共助）」	16
1)建物倒壊 2)建物火災 3)道路閉塞	
ステップ3 もしものときに備えましょう	22
(1)「事前対策」の考え方	22
(2)「事前対策（公助）」を活用しましょう	23
(3)「事前対策リスト（自助）」	25
(4)「事前対策リスト（共助）」	26
1)建物倒壊への対策 2)建物火災への対策 3)道路閉塞への対策	
ステップ4 自分に何ができるか考えましょう	28
(1)地域防災活動に参加しましょう	28
(2)住民防災組織の役割分担	28
ステップ5 防災訓練をしましょう	29
(1)防災訓練の必要性	29
(2)防災訓練のメニュー	29
おわりに	30
(1)共助の防災対策を進める上での課題	30
(2)本マニュアルの活用方法	30

「防災マニュアル」の考え方

ポイント！

この「防災マニュアル」では、自分が住むまちの共助の防災対策として、特に、災害時の危険や防災に役立つものが、どこにあるのか（ステップ1）、発災後、時間の流れに沿ってどのように被害が広がり、それにどう対応するのか（ステップ2）、災害前の事前対策をどのように進めるのか（ステップ3）の3つについて、具体的に検討し作成しました。

(1)「防災マニュアル」5つのステップ

ステップ1

自分の住むまちを知りましょう

— p5 から詳しく！ —

被災と対応の「空間」をイメージする



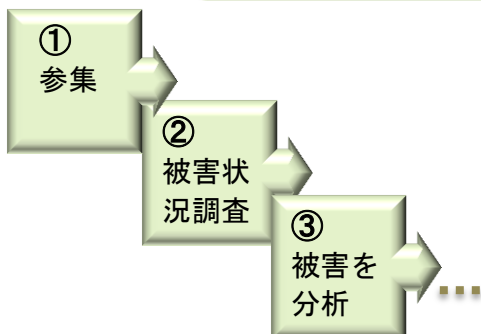
- 災害時に、まちのどこにどのような被害が起こりうるのか（災害時の危険）、それに対処するために役立つもの（防災上の資源）がどこにあるのかを考えます。
- そのため、まずは、地区の被害想定や地域特性などを確認します。
- さらに、実際にまち歩きをして、自分の住むまちの危険・資源を自らが点検・整理し、防災マップ（「危険・資源マップ」）をつくりましょう。

ステップ2

大地震発生！まちでそのときには

— p14 から詳しく！ —

被災と対応の「時間」をイメージする



- 災害対応の行動手順について、映画のシナリオのように、災害による被害がいつまでどのような形で続くのか、それへの対応をどのように行えばよいのかを示す「被災・対応シナリオ」を確認し、自分のいざというときの行動を考えます。

ステップ3

もしものときに備えましょう

— p22 から詳しく! —

災害対応の「実効性」を確保する



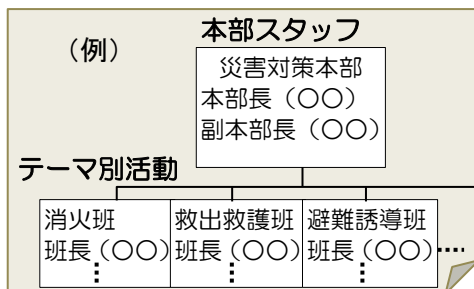
- 甚大な被害に対して、災害時の限られた人や情報等の資源をいかに効率的に活用するか、その優先順位付けとそのための「事前対策」を考えます。
- 地域で協力しながら、人・モノ・情報・空間等について「事前対策」を進めましょう。

ステップ4

自分に何ができるか考えましょう

— p28 に詳しく! —

災害対応を担う「主体」をイメージする



- 地域で協力して住民の命と財産を守るために、住民防災組織活動に積極的に参加しましょう。
- 組織体制については、やるべき活動ができるように、災害時には「被災・対応シナリオ」に対応した役割分担を、平常時には「事前対策リスト」に対応した役割分担を考えます。

ステップ5

防災訓練をしましょう

— p29 に詳しく! —

災害対応の「実行性」を確保する



- 実際に災害対応ができるように、「危険・資源マップ」や「被災・対応シナリオ」を活用し、実践的な防災訓練（図上訓練や実動訓練）に取り組みましょう。
- さらには、防災訓練を検証し、必要に応じてマニュアルを見直すこと、この繰り返し大切です。

(2) 本マニュアルの作成過程

本マニュアルは、下赤塚地区住民の主体的な参加によって、平成27年度に全5回の話し合いを経て策定されました。

全5回の開催概要、主な検討課題は下表のとおりです。なお、右欄は「5つのステップ」との関係を示します。



実施回・日	主な検討課題	5つのステップ	
第1回 (2015/6/4)	<ul style="list-style-type: none"> ●「被害想定図」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ○地区防災の考え方、対象地区の地域特性、地震に関する地域危険度、首都直下地震の被害想定、風水害の被害想定等を学習 ○上記の内容から、地区の被害イメージを検討・共有 	①被災と対応の「空間」をイメージする	
第2回 (2015/7/26)	<ul style="list-style-type: none"> ●「危険・資源マップ」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ○まち歩き準備（役割分担、準備物確認、被害想定、まち歩きの着目点等をもとにまち歩きルートの確認） ○まち歩きで地区の危険と資源を点検し、マップに整理・共有 		
第3回 (2015/8/26)	<ul style="list-style-type: none"> ●「被災・対応シナリオ（共助）」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ○「危険・資源マップ」を踏まえた「被災シナリオ」・「対応シナリオ」の考え方を学習 ○住民防災組織としての災害対応の課題とその行動手順を時系列の流れに沿って検討・共有 	②被災と対応の「時間」をイメージする	
第4回 (2015/10/20)	<ul style="list-style-type: none"> ●「事前対策リスト（共助）」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ○「地区防災計画」・「業務継続計画」の考え方を学習 ○「被災・対応シナリオ（共助）」をもとに、とくに優先度の高い活動を具体化 ○上記を実施するために必要な事前対策（人・モノ・情報・空間等）を検討・共有 		③災害対応の「実効性」を確保する
第5回 (2015/11/26)	<ul style="list-style-type: none"> ●「防災マニュアル」の検討 <ul style="list-style-type: none"> ○「防災マニュアル」と「防災マップ」のたたき台を検討 ○今後の地区防災対策の進め方を検討・共有（防災ビジョン、マニュアル活用方法の検討等） 	⑤災害対応の「実行性」を確保する	
マニュアル策定後	<ul style="list-style-type: none"> ●今後の活動（例） <ul style="list-style-type: none"> ○マニュアルの普及・啓発 ○まち歩きと防災マップづくり ○防災訓練の企画、実施 ○町会・自治会別のマニュアルづくり ○組織体制の見直し ○関係機関や事業所との連携、等 		④災害対応を担う「主体」をイメージする

(1) 下赤塚地区の地域特性

ポイント！

下赤塚地区の特徴からみた被害想定



阪神・淡路大震災の延焼火災

< 揺れやすさ >

- 荒川低地から前谷津川（暗渠）や南側に向けて浅い谷が入り込んだ地形で、これまで盛土し、宅地化されてきました。
⇒盛土地は揺れやすく、よう壁や地盤の崩壊、建物、ライフライン等への被害、道路閉塞等が想定されます。また、水害による浸水の可能性もあります。

< 建物の倒壊、火災、室内の被害 >

- 木造密集市街地が分布しています。
⇒建物倒壊、火災による延焼の危険があります。
- 地区内にはマンションも多くみられます。
⇒家具転倒による生き埋め者、ライフライン途絶による生活支障が想定されます。

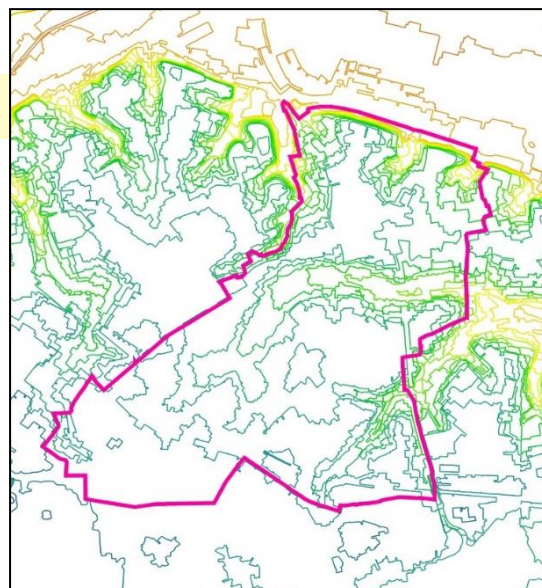
< 避難 >

- 幹線道路（川越街道、新大宮バイパス、首都高速5号線）に囲まれています。
⇒幹線道路の通り抜け車両や帰宅困難者により、地区内道路も大渋滞となり、地区内住民の避難や負傷者搬送の妨げになることが想定されます。
- 避難場所に「光が丘団地・光が丘公園一帯」・「高島平二・三丁目地区」が指定されています。
⇒とくに前者の場合、そこに至る避難経路には狭い道が多く、高架道路の被害や広幅員道路の渋滞等で、避難が難しくなることが予想されます。

さらに詳しく！

①地形

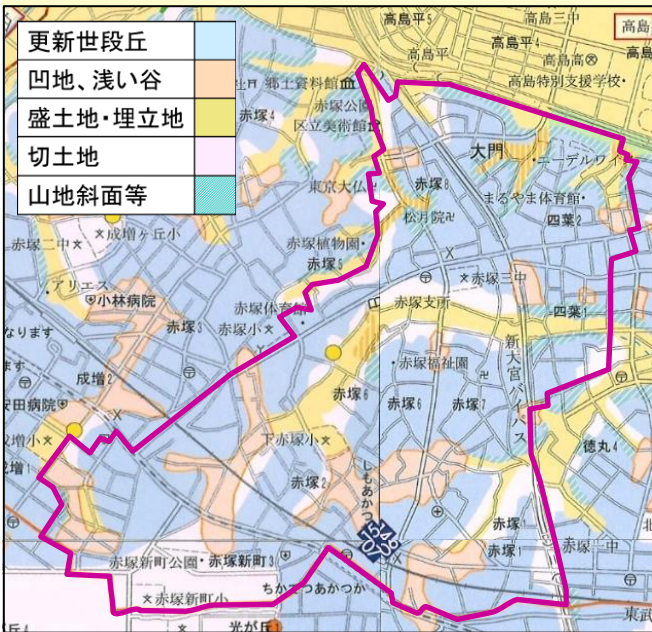
- 下赤塚地区の標高は、荒川低地の 10m から武蔵野台地の 36m に及ぶ。
- 崖線（台地のへり）の高さは 10m から 30m と約 20m の高低差がある。



標高

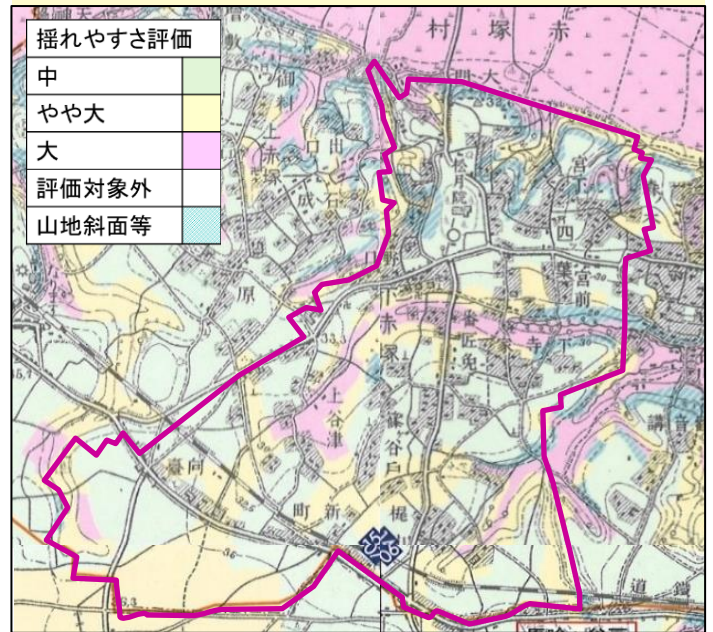
- 12m
- 14m
- 16m
- 18m
- 20m
- 22m
- 24m
- 26m
- 28m
- 30m
- 32m

②土地条件図



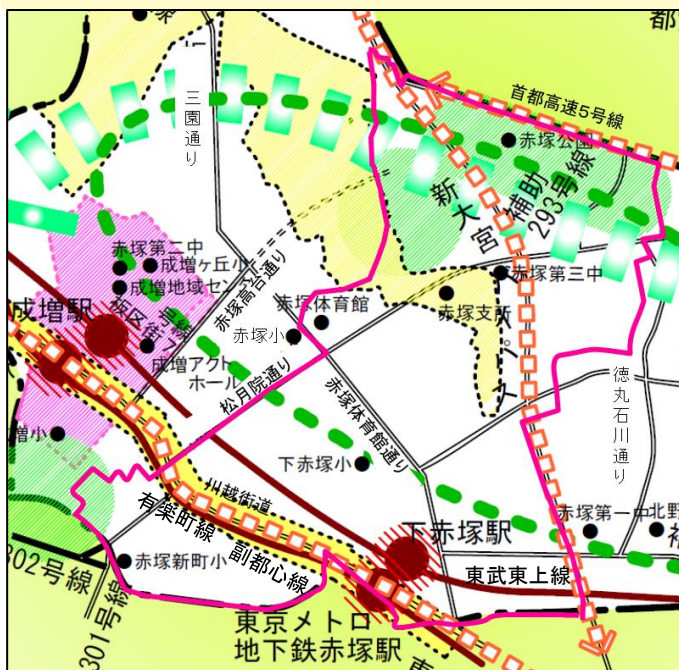
- ・ 武蔵野台地である更新世段丘に、盛土・埋立てした河川低地が入り込む。
- ・ 両者の間に、浅い谷や山地斜面、切土地が見られる。

③旧版地図・地盤の揺れやすさ評価



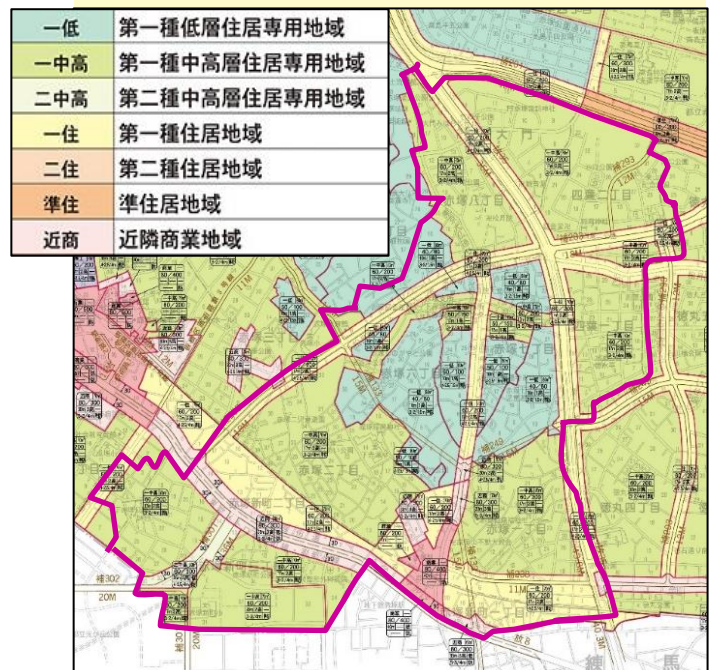
- ・ 低地部（盛土地）は揺れやすさ「大」。
- ・ 切土地や浅い谷は「やや大」。
- ・ 段丘面は揺れやすさ「中」。

④土地利用-都市基盤



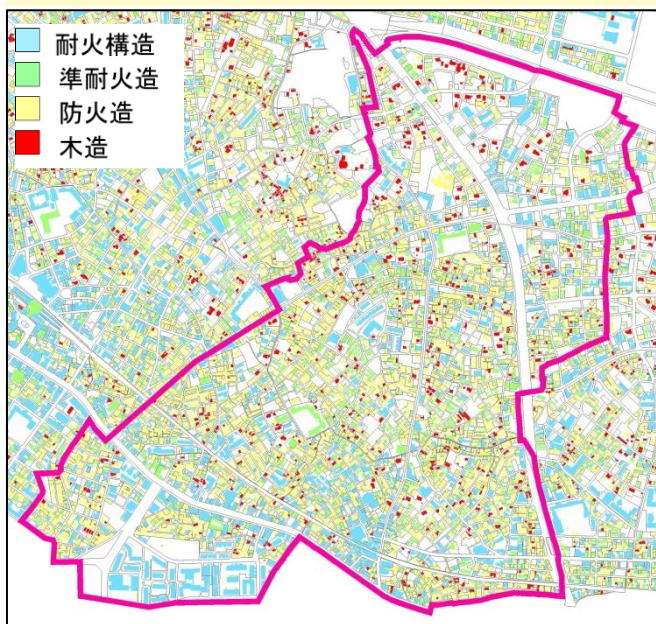
- ・ 幹線道路（首都高速5号線、川越街道、新大宮バイパス）と鉄道（東武東上線、有楽町線・副都心線）が通る。
- ・ 土地の細分化が一部で進んでいる。

⑤土地利用-用途地域



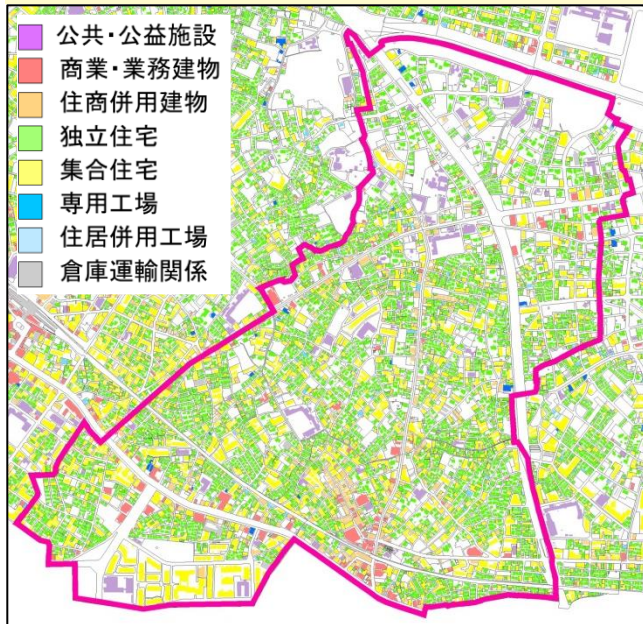
- ・ 地区のほとんどが住居系。
- ・ 下赤塚駅周辺は商業系。
- ・ 近年は、農地から住宅へと土地利用が変化している。

⑥建物属性-建物構造



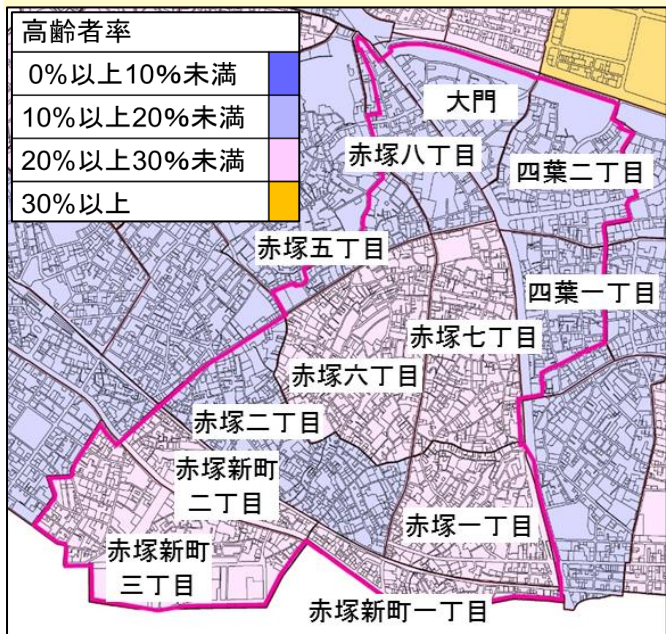
- 棟数割合では防火造が過半数を占める。
- 街区の内側に、木造（木材が外部に露出した建物）が点在している。

⑦建物属性-建物用途



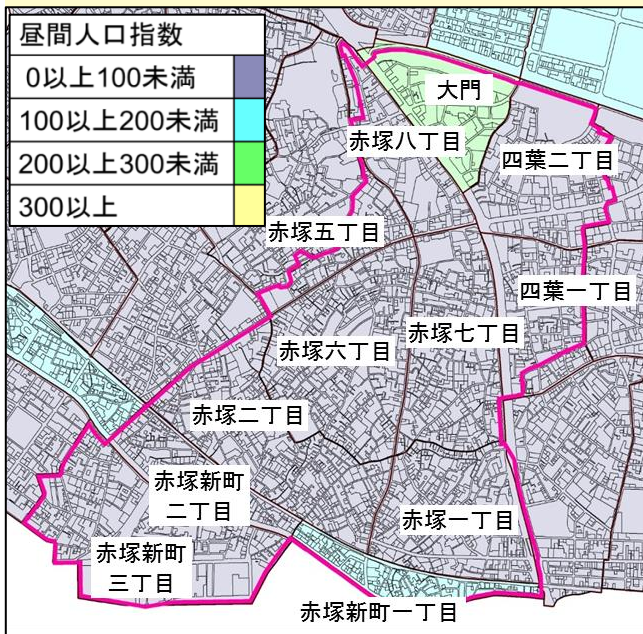
- 棟数割合では独立住宅、集合住宅が約 85% を占め、地区全域に広がる。

⑧人口属性-高齢者率（町丁目別）



- 高齢者(65歳以上)率は、板橋区平均(23%)とほぼ同じかそれより低い。

⑨人口属性-昼間人口指数（町丁目別）



- 昼間人口指数（夜間人口を100とした場合の昼間人口）は、大門と赤塚新町一丁目が高く、他は区平均(92)より低い。

出典一覧：①ミッドマップ東京 1/2500 地形図、②③首都大地震ゆれやすさマップ2013 年旬報社、④板橋区都市計画マスタープラン、⑤H27 板橋区用途地域図、⑥⑦H23 東京都土地利用現況調査、⑧H27.1 板橋区住民基本台帳、⑨H22 板橋区国勢調査